

『小学生向けプログラミング 教室の先生をやってみて気づい たプログラミング教育とは』



野口浩二

鳥取県西伯郡南部町出身
富山大学理学部を卒業
名古屋大学大学院博士前期を修了

プログラミング教育とは『プログラミングを通して子供の人格形成をサポートすること』

教室	学研権田 gr. 住吉教室
期間	平成30年5月から現在
教材	学研もののしくみ教室
対象	小学3年生から
学習時間	1回90分 月2回



メッセージ

平成28年に発表された経
済産業省のレポートによると
2030年には約59万人の
ICT人材が不足すると言われ
ています。

小学生からプログラミング
などICT技術に触れる事は、
子供たちが職業を選択する際
の可能性を大きく広げてくれ
ると思います。

先生をして感じたこと

最初はただプログラミングの
方法を教えれば良いと考えてい
ましたが、生徒や教室の先生と
話をするうちにプログラミング
教育とは、プログラミングを
使って子供の人格形成を助ける
ことだと気付きました。

教室では子供の話聞き子供
の考えに寄り添うことを大切に
しています。

先生をして困ったこと

教材を使い始めた頃は、プロ
グラミングした結果が思うよう
に動かないことが頻繁にありま
した。原因のほとんどはプログ
ラミングのミスによるものでし
た。

先生を始めたきっかけ

友人からプログラミング教
室の先生を探しているという
情報を聞き、教室に電話しま
した。



学習の流れ（90分）

準備 5分	導入 10分	ロボット組立 35分	プログラミング 35分	片付け 5分
----------	-----------	---------------	----------------	-----------